

2019年（令和元年） 5月31日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

5/16~5/22のNYMEX・WTIは、61.42~63.10ドルの範囲で推移した。

5月23日は、米国株式市場が暴落する中、米中貿易摩擦の長期化懸念や英国メイ首相の辞任表明など世界経済の先行き不安、前日のEIAの米国内石油在庫増加、週末から三連休を前にした利益確定売りなどが重なり、大幅続落、一時は2ヵ月ぶりの安値を記録した。7月限終値は前日比3.51ドル安の57.91ドル。

週末24日は、前日の反動で安値拾いや三連休前の持ち高調整の買いが入り、反発した。また、ペーカーヒューズ社によると、米国稼働リグは797基と前週比5基減と2週連続の減少。7月限終値は前日比0.72ドル高の58.63ドル。

27日は、メモリアルデーにより休場。

三連休明けの28日は、前週末からの持ち高調整の買いが続き、さらにオクラホマ等での洪水で石油施設に被害が出ているとの報道で、続伸した。7月限終値は前日比0.51ドル高の59.14ドル。

29日は、米国株式が下落する中、米中貿易戦争の激化・長期化懸念で、3営業日ぶりに反落した。EIA米国在庫週報は、一日遅れの発表の予定。7月限の終値は前日比0.33ドル安の58.81ドル。

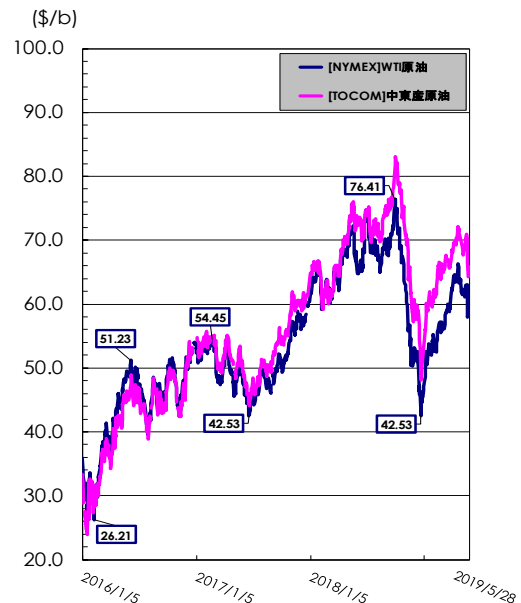
アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(7月渡し)は5月16日~22日の間71.30~72.70ドルの範囲で推移した。5月23日69.70ドル、24日67.00ドル、27日66.90ドル、28日68.20ドル、29日67.60ドルで推移した。

為替は5月16日~22日の間109.51~110.53円の範囲で推移した。5月23日110.28円、24日109.75円、27日109.50円、28日109.57円、29日109.28円で推移した。

財務省が5月30日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、5月上旬の原油輸入平均CIF価格は、50,785円/klで、前旬比2,189円高、ドル建てでは72.13ドルで前旬比2.87ドル高。為替レートは1ドル/111.92円だった。

そのような中で、5月27日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.1円の値下がり、軽油も同0.1円の値下がり、灯油は同横ばい(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は2週連続の値下がり、灯油は14週ぶりに値上がり止まった。この週(5月第4週)の原油コストは値下がりし、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き下げとなった。

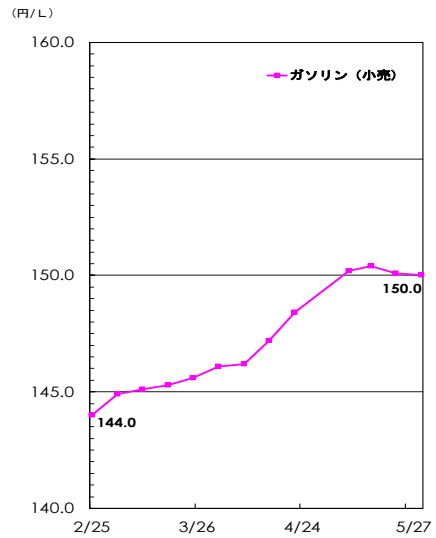
| 原油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 |
|----|-----------------------|-------------|----------------|---------|
| 需給 | 原油処理量 (千kl) | 5/19 ~ 5/25 | 2,827 ▼ -298 | ▼ - |
| | トッパー稼働率 (%) | " | 72.2 ▼ -7.6 | ▼ - |
| | 原油在庫量 (千kl) | 5/25 | 13,643 ▼ -208 | ▲ - |
| 価格 | 中東産原油(TOCOM) (\$/bbl) | 5/27 | 64.45 ▼ -6.52 | ▼ -7.0 |
| | WTI原油(NYMEX) (\$/bbl) | 5/28 | 59.14 ▼ -3.96 | ▼ -7.6 |
| | 原油CIF単価 (\$/bbl) | 5月上旬 | 72.13 ▲ 2.87 | ▲ 1.37 |
| | ①原油CIF単価 (¥/kl) | " | 50,785 ▲ 2,189 | ▲ 2,224 |
| | ②ドル換算レート (¥/\$) | " | 111.92 ▼ -0.38 | ▼ -2.82 |
| | 外国為替TTSレート (¥/\$) | 5/27 | 110.50 ▲ 0.67 | ▲ 0.03 |



(単位: 千kl、円/%)

| ガソリン | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|------|----------------------------|-------------|--------------|-------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/19 ~ 5/25 | 884 ▲ 26 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 853 ▲ 45 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 21 ▼ -34 | ▼ - | |
| | 在庫 | 5/25 | 1,579 ▲ 10 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/21 ~ 5/27 | 63.8 ▲ 0.7 | ▼ -4.6 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/21 ~ 5/27 | 59.7 ▼ -1.9 | ▼ -6.2 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/27 | 58.8 ▼ -5.1 | ▼ -6.2 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/27 | 150.0 ▼ -0.1 | ▼ -1.0 | |

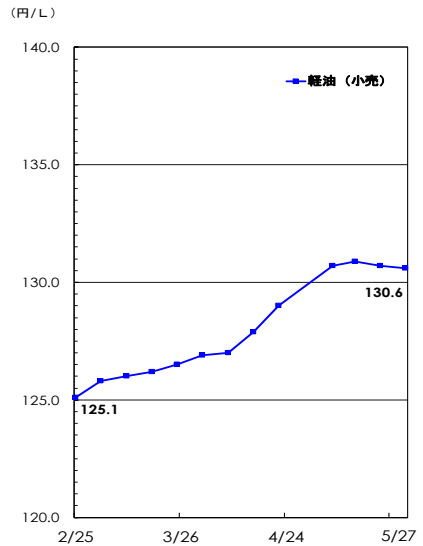
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

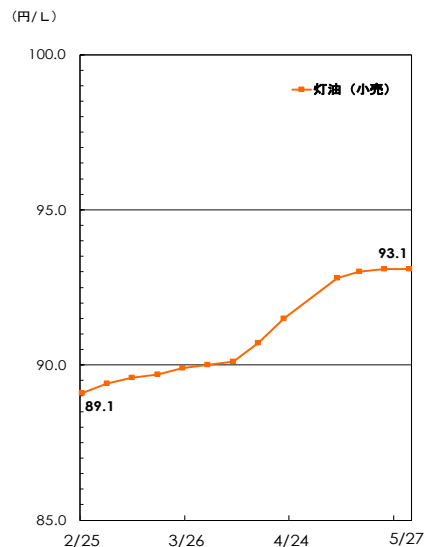
| 軽油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|--------------|-------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/19 ~ 5/25 | 780 ▲ 21 | ▲ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 649 ▼ -4 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 159 ▲ 11 | ▲ - | |
| | 在庫 | 5/25 | 1,451 ▼ -28 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/21 ~ 5/27 | 66.3 ▼ -0.4 | ▼ -3.5 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/21 ~ 5/27 | 67.2 ▼ -0.6 | ▼ -0.9 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/27 | - | - |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/27 | 130.6 ▼ -0.1 | ▲ 1.2 | |

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

| 灯油 | | 今週 | 前週比 | 前年比 | |
|----|----------------------------|-------------|-------------|-------------|--------|
| 需給 | 生産 | 5/19 ~ 5/25 | 140 ▼ -51 | ▼ - | |
| | 輸入 | " | n.a. | n.a. | |
| | 出荷 | " | 110 ▲ 11 | ▼ - | |
| | 輸出 | " | 0 ▼ -24 | ▶ - | |
| | 在庫 | 5/25 | 1,331 ▲ 29 | ▼ - | |
| 価格 | 業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM) | 5/21 ~ 5/27 | 66.1 ▶ 0.0 | ▼ -2.8 | |
| | 先物 [期近物/終値] | (TOCOM/東京湾) | 5/21 ~ 5/27 | 62.1 ▼ -2.1 | ▼ -4.9 |
| | | (TOCOM/中部) | 5/27 | 62.0 ▼ -3.7 | ▼ -4.0 |
| | 小売 [週動向] (資工庁公表) | 5/27 | 93.1 ▶ 0.0 | ▲ 1.5 | |



■ 関連情報

1 海外/原油

5月29日のNYMEX市場WTI原油は、中国人民日報が「米国の電子機器や軍事備品は中国産のレアアースに依存している」と反論するなど、米中貿易戦争の激化の懸念が高まるとともに、米国株式市場が値を下げるなど投資家のリスク回避姿勢が深まったことから、3営業日ぶりに反落した。ただ、経済制裁の影響でイランの5月原油輸出量が平均40万b/dと4月の半分の水準に落ちているとの報道もあり、下値を支えた。米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報は、三連休により、1日遅れの30日の発表となった。7月限の終値は前日比0.33ドル安の58.81ドル、8月限の終値は前日

比0.40ドル安の58.95ドル。

EIAによると、5月27日時点のガソリンの小売価格は、前週比3.0セント値下がりの1ガロン2.822ドル(82.3円/ℓ)、ディーゼルは同1.2セント値下がりの3.151ドル(91.9円/ℓ)となった。ガソリンは3週連続の値下がり、ディーゼルは2週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年5月19日～5月25日に休止したトッパー能力は72.4万バレル/日で、前週に対して28.1万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は282.7万klと、前週に比べ29.8万kl減少。前年に対しては21.9万klの減少。トッパー稼働率は72.2%と前週に対して7.6ポイントの減少、前年に対しては5.6ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、軽油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/3.0%増、ジェット/6.9%減、灯油/26.5%減、軽油/2.8%増、A重油/36.2%減、C重油/29.6%減。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比4.5万kl減)。軽油の輸出は15.9万kl(前週比1.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比では軽油、C重油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではジェットが増加となり、その他の油種で減少となった。ガソリンの出荷は85.3万kl(対前週5.6%増)と前週比で3週振りが増加となり、21週連続で100万klを下回った。ジェット12.9万kl(対前週30.2%増)、灯油11.0万kl(対前週11.1%増)、軽油64.9万

kl(対前週0.6%減)、A重油16.7万kl(対前週0.6%増)、C重油13.0万kl(対前週37.7%減)。

(単位:千KL)

| | 今週 (5/19 ~ 5/25) | 前週 (5/12 ~ 5/18) | 前週比 | |
|--------|---------------------|---------------------|-------|--------|
| ガソリン | 853 | 808 | ▲ 45 | (6%) |
| ジェット燃料 | 129 | 99 | ▲ 30 | (30%) |
| 灯油 | 110 | 99 | ▲ 11 | (11%) |
| 軽油 | 649 | 653 | ▼ -4 | (-1%) |
| A重油 | 167 | 166 | ▲ 1 | (1%) |
| C重油 | 130 | 209 | ▼ -79 | (-38%) |
| 合計 | 2,038 | 2,034 | ▲ 4 | (0%) |

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月25日時点の在庫は、ガソリン、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対してはA重油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは157.9万kl、前週差1.0万kl増。前年に対しては18.6万kl少ない。

灯油は133.1万kl、前週差2.9万kl増。前年に対しては18.0万kl少ない。

軽油は145.1万kl、前週差2.8万kl減。前年に対しては1.2万kl少ない。

A重油は76.7万kl、前週差6.6万kl減。前年に対しては0.5万kl多い。

C重油は192.7万kl、前週差4.9万kl減。前年に対しては16.4万kl少ない。

(単位:千KL)

| | 今週 (5/25) | 前週 (5/18) | 前週比 | |
|--------|--------------|--------------|--------|---------|
| ガソリン | 1,579 | 1,569 | ▲ 10 | (1%) |
| ジェット燃料 | 864 | 885 | ▼ -21 | (-2%) |
| 灯油 | 1,331 | 1,302 | ▲ 29 | (2%) |
| 軽油 | 1,451 | 1,479 | ▼ -28 | (-2%) |
| A重油 | 767 | 833 | ▼ -66 | (-8%) |
| C重油 | 1,927 | 1,976 | ▼ -49 | (-2%) |
| 合計 | 7,919 | 8,044 | ▼ -125 | (-1.6%) |

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月21日～27日の原油価格は、前週比で値下がりし、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値下がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、5月21日～27日の間、ガソリン117～118円台で値上がり後値を戻し、軽油66円台でやや値下がり、灯油65～66円台でわずかに値下がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン117～119円台で大きく値上がり後やや値を戻し、軽油68円台でほぼ横ばい後やや値下がり、灯油60～65円台で激しく値下がりして

推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン111～116円台で激しく値下がり、軽油66～67円台で値下がり、灯油59～65円台で激しく値下がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに全社0.5円の引き下げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

5月21日～27日の製品スポット市況は、5月14日～20日平均と比べ、海上と陸上のガソリンが値上がり、陸上の灯油と海上の軽油が横ばい、それ以外の油種・取引で値下がりした。

6月第1週(5/30～6/5)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5/21～5/27千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.7円の値上がり、灯油は1.7円の値下がり、軽油は横ばいだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが1.9円の値下がり、灯油は2.1円の値下がり、軽油は0.6円の値下がりだった。

6月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き下げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

| [陸上ローリー4地区平均] | 今週 (5/21 ~ 5/27) | 前週 (5/14 ~ 5/20) | 前週比 |
|---------------|------------------|------------------|--------|
| | レギュラー | 63.8 | 63.1 |
| 灯油 | 66.1 | 66.1 | → 0.0 |
| 軽油 | 66.3 | 66.7 | ▼ -0.4 |

(TOCOM) (単位: 円/%)

| [期近物/終値] [平均] | 今週 (5/21 ~ 5/27) | 前週 (5/14 ~ 5/20) | 前週比 |
|---------------|------------------|------------------|--------|
| | レギュラー | 59.7 | 61.6 |
| 灯油 | 62.1 | 64.2 | ▼ -2.1 |
| 軽油 | 67.2 | 67.8 | ▼ -0.6 |

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/21～5/27実績値) (単位: 円/%)

| 油種 | 現物 | 先物 | 平均 |
|------|--------|--------|--------|
| ガソリン | ▲ 0.7 | ▼ -1.9 | ▼ -0.6 |
| 灯油 | → 0.0 | ▼ -2.1 | ▼ -1.1 |
| 軽油 | ▼ -0.4 | ▼ -0.6 | ▼ -0.5 |
| A重油 | ▼ -0.1 | | |

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月27日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.1円安の150.0円、軽油も同0.1円安の130.6円、灯油は18%ベースで同横ばいの1,675円(1%ベースでは同横ばいの93.1円)だった。ガソリンと軽油は2週連続の値下がり、灯油は14週ぶりに値上がりが止まった。都道府県別には、値上がりが8県、横ばいが8県、値下がりが31都道府県だった。全国最安値は徳島県の145.8円(前週比0.2円高)、次が埼玉県の146.2円(同0.1円高)、最高値は長崎県の161.0円(同0.3円安)であった。最も値上がりしたのは1.8円高の高知県(154.0円)、横ばいは大分県等8県、最も値下がりしたのは1.0円安の福島県(152.1円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の引き上げとなった。

今週は、原油価格は値下がりし、為替レートの円安がこれをわずかに相殺したが、原油コストは値下がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社0.5円の引き下げとなった。次週(6月3日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値下がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

| (資工庁公表) [週動向] | 今週 (5/27) | 前週 (5/20) | 前週比 | 直近高値 |
|---------------|-----------|-----------|--------|---------------|
| レギュラー | 150.0 | 150.1 | ▼ -0.1 | 08/8/4 185.1 |
| 灯油 | 93.1 | 93.1 | → 0.0 | 08/8/11 132.1 |
| 軽油 | 130.6 | 130.7 | ▼ -0.1 | 08/8/4 167.4 |

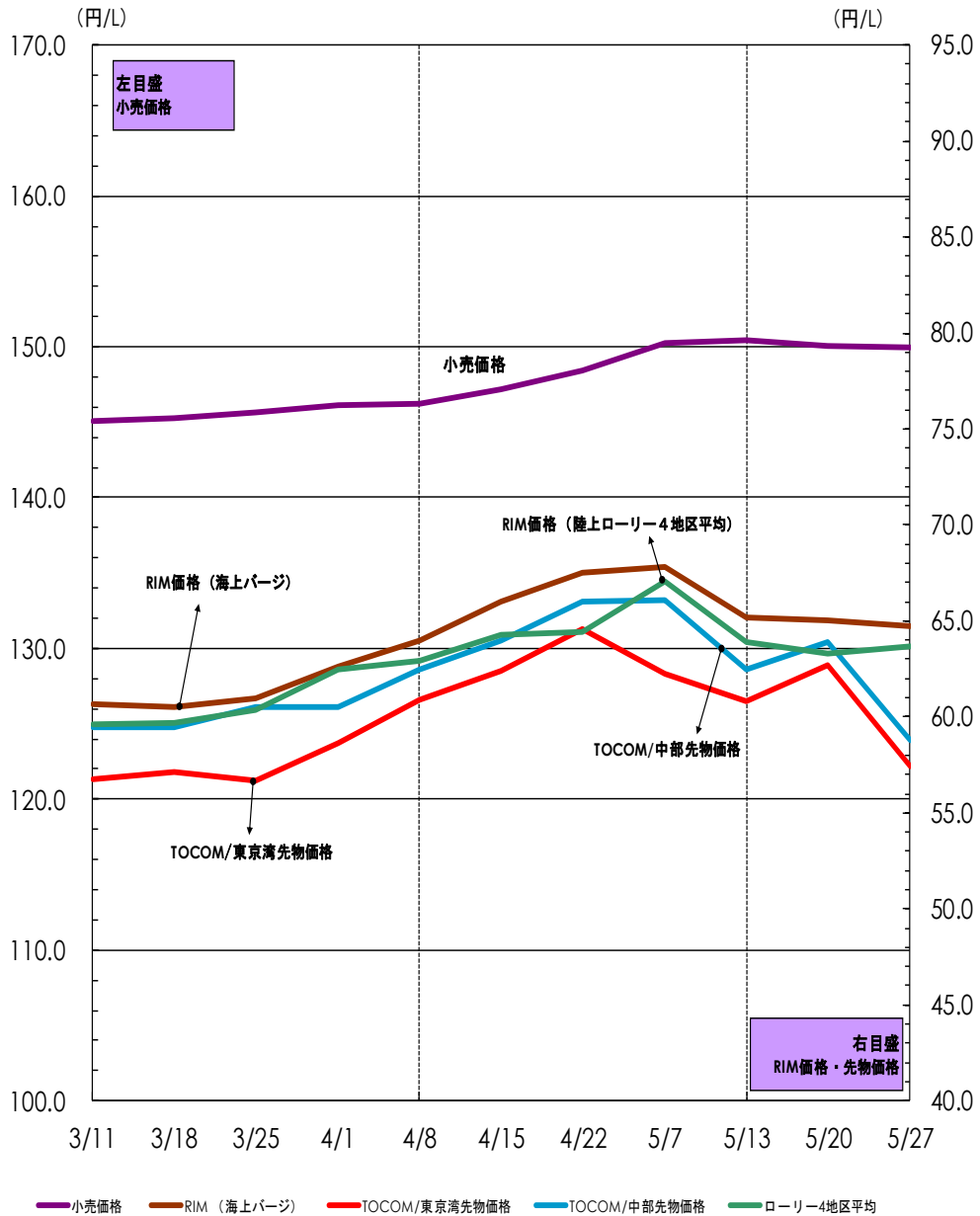
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/3/11 ~ 2019/5/27)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第9号)の公表は、6/7(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange: NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange: TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM(Telegraphic Transfer Middle rate: 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾 及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。